



Sounds Great

Listening Practice on English Reduced Forms

～ 英語リダクションをリスニング中心に～

今井由美子・Paul Evans
平岩葉子・米田信子

英宝社

SOUNDS GREAT

Listening Practice on English Reduced Forms

『英語リダクションをリスニング中心に』

今井由美子

米田 信子

平岩 葉子

Paul Evans

共 著

英 宝 社

本書について (Introduction)

英語を学習していて、書かれていれば読めるのにリスニングでは聞き取れないという場面に遭遇したことがあるだろう。これは実際に発話される英語の中では、省略、弱化、結合など様々な現象が起きているからである。本書では、英語を母語とする者が自然な速さで発音する際に起こるこれらの様々な現象について取り上げた。英語を母語としない学習者にとって、自然な発話の速度やリズムに慣れると同時に、発話の中での実際の音の現れ方を理解し、それに慣れることは、リスニング力を身につけるために大いに役立つであろう。また日本語とは異なる英語のリズムを体得することで、自然な速度の英語音声を聞くリスニング力の向上はもちろん、音声表現におけるスキル向上にも効果を発揮すると期待している。

本書では主として「標準アメリカ英語」を使用し、機能語の弱形、短縮形、単語間における音のつながり（連結・脱落・同化）などを22のレッスンでまとめた。リスニングや英語音声学の授業の副教材として教室で、また復習課題・自主学習課題として利用していただきたい。

各Lessonは、Listen and Repeat! でまず音の現れ方の確認と口頭練習を行う。Fill in the blanks! はPartial Dictation とFull Dictation の2パートからなり、Partial Dictation では学習ポイントを中心に2語～4語程度のディクテーション課題を用意した。Full Dictationでは、短文から7語～9語程度の長さの文の聴き取りにチャレンジしてほしい。

またCALL教室での録音活動が可能であれば、音声教材を利用し、Repeating（スクリプトを見ずに音声だけを頼りに繰り返し発音する練習）にも是非チャレンジしていただきたい。録音し、自分の音声をチェックすることは恐らく普段あまり機会がなく、また気恥ずかしいものであるが、自分の発音を客観的に知ることによって「もっと上手に」とさらに練習意欲を高めるきっかけになるだろう。その際、Lessonの学習ポイントである弱形・省略・音のつながりへの意識はもちろん、どの語が強く発音されているのかということにも意識をはたらかせて発音することで、英語のリズムをつかむよい練習材料にしてほしい。英語母語話者のように自然な速さで英語を話すことは難しいかもしれないが、少しでも自分の理想の英語発音に近づくことは大いに励みになるはずである。

巻末に「弱形・強形リスト」を載せた。単語レベルのIPAについては「研究社リーダーズ英和辞典（第2版）」をもとに表記している。しかし発話速度による違いや個人差などもあり、当然ながらそれらすべてをリストに載せることはできない。また辞書によりその表記方法も多少異なるところもあるが、弱形・強形を理解するにあたり、このリストを一例として参考にしていただきたい。

本書の執筆にあたり、企画構成においては井上球美子先生、校正段階では上田洋子先生に多大なご協力をいただいた。また英宝社の宇治正夫氏にはわれわれの趣旨をご理解いただき、ご支援いただいた。これらの方々に感謝の意を表したい。

2011年10月
執筆者一同

Contents

本書について (Introduction)	3
英語の母音・子音 (English Vowels and Consonants)	9
英語のリズム (English Rhythm)	10
内容語と機能語 (Content Words and Function Words)	10
弱形と強形 (Weak Forms and Strong Forms)	11
音のつながり (Linking, Elision and, Assimilation)	13
Lesson 1 冠詞 (Articles) a, an, the, some, any	15
Lesson 2 代名詞 (Pronouns) ① I, my, me, you, your	17
Lesson 3 連結 (Linking) ① 子音+母音	19
Lesson 4 連結 (Linking) ② [r]を含む母音+母音, 子音+[j]	21
Lesson 5 代名詞 (Pronouns) ② she, her, he, his, him	23
Lesson 6 代名詞 (Pronouns) ③ it, its, they, their, them, we, our, us	25
Lesson 7 be動詞 (BE-Verbs) be, am, is, are, was, were	27
Lesson 8 助動詞 (Auxiliary Verbs) ① do, does, did	29
Lesson 9 助動詞 (Auxiliary Verbs) ② can, will, may, shall, must, could, would, should	31
Lesson 10 脱落 (Elision) ① 同じ子音の連続	33
Lesson 11 脱落 (Elision) ② 閉鎖音+子音	35
Lesson 12 助動詞 (Auxiliary Verbs) ③ have, has, had	37

Lesson 13	同化 (Assimilation) ① 相互同化	39
Lesson 14	同化 (Assimilation) ② 無声化	41
Lesson 15	前置詞 (Prepositions) of, in, on, at, to, for, from, than, with	43
Lesson 16	同化 (Assimilation) ③ n の同化	45
Lesson 17	接続詞 (Conjunctions) and, or, but, as, if	47
Lesson 18	同化+脱落 (Assimilation and Elision) t と n の同化と脱落	49
Lesson 19	when, where, who, which, what, why, whose	51
Lesson 20	this, that, these, those	53
Lesson 21	短縮形 (Contracted Forms) の will, have, has	55
Lesson 22	短縮形 (Contracted Forms) の would, have, had	57
	弱形・強形リスト	59

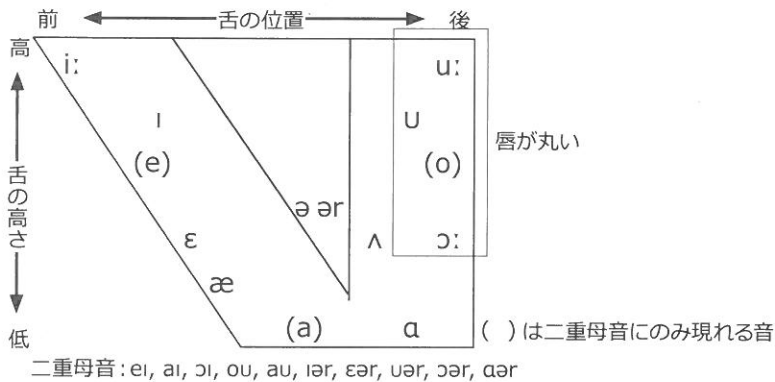
英語の母音・子音 English Vowels and Consonants

言語を構成する音は大きく母音と子音に分けられる。声を出すときの空気の流れに対して妨害や制限が加えられないものが母音、何らかの妨害や制限が加えられるものが子音である。

母音の音色は次の3つの要素で決定づけられる。

- ①舌の高さ（口がどのくらい開いているか）
- ②舌の位置（舌のどの部分が一番高くなっているか）
- ③唇の形（唇が丸まっているかどうか）

〈図1: 英語の母音〉



子音の音色は次の3つの要素で決定づけられる。

- ①声帯の振動の有無（有声と無声）
- ②空気の流れに対して妨害や制限が加えられる位置（調音点）
- ③空気の流れに対して加えられる妨害や制限の種類（調音法）

〈表1: 英語の子音〉

		調音点							
		両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
		無声/有声	無声/有声	無声/有声	無声/有声	無声/有声	無声/有声	無声/有声	無声/有声
調音法	閉鎖音	p b			t d			k g	
	破擦音					tʃ dʒ			
	鼻音	m			n			ŋ	
	摩擦音		f v	θ ð	s z	ʃ ʒ			h
	接近音 ¹	w			r		j		
	側面接近音 ²				l				

1: 「半母音」としている教科書もある 2: 「側音」としている教科書もある

内容語とは、名詞や動詞のようにその単語だけでも意味を伝えることができる語である。一方、その単語だけでは意味が伝わらず、主に他の単語との文法的な関係を表しているのが機能語である。

主な内容語：動詞、名詞、形容詞、副詞、疑問詞、数詞など

主な機能語：冠詞、代名詞、前置詞、接続詞、助動詞、be動詞、不定形容詞 (some, any) など

つまり動詞や名詞などの内容語は強くゆっくりと発音されるため聞き取りやすいが、冠詞や前置詞などの機能語は弱くすばやく発音されるので聞き取りにくい。下の例では太字が強くゆっくり発音される内容語、それ以外が弱く素早く発音される機能語である。●はいずれも内容語に現れているのがわかるだろう。

They have been **eating** some **apples** in the **garden**.

○ ○ ○ ● ○ ○ ● ○ ○ ○ ● ○

弱形と強形 Weak Forms and Strong Forms

単語によっては、内容語としても機能語としても用いられるものもある。つまり同じ単語でも用いられ方や文中の位置によって、強勢を受ける場合とそうでない場合、言い換えれば聞き取りやすい場合とそうでない場合があるということである。強勢を受ける形を「強形」、強勢を受けない形を「弱形」と呼ぶ。以下に例を挙げる。単語の下に___がついているのが、強形で発音されて聞き取りやすい場合の例である。弱形で発音される場合の例と比較してみよう。

内容語にも機能語にもなる語

① **this, that**: 単独で主語や目的語になる場合および直後に代名詞oneが続く場合には強勢を受けるが、直後に名詞が続く場合には強勢を受けない。また関係詞や接続詞として用いられるthatも強勢を受けない。

This is my favorite book.

I'll take **that** one.

This film is my favorite.

I heard **that** the professor is very popular.

- ② **one**: 形容詞や数詞として用いられる場合は強勢を受けるが、代名詞として用いられる場合は強勢を受けない。

One morning I had a chance to talk to the girl.

He is **one** of my best friends.

It's **one** o'clock in the morning.

I like the green **one** on the shelf.

- ③ **like**: 動詞として用いられる場合は強勢を受けるが、前置詞として用いられる場合は強勢を受けない。

My wife would like this scarf.

She wanted a dress **like** this one.

- ④ **there**: 場所を表す副詞として用いられる場合は強勢を受けるが、There構文で用いられる場合は強勢を受けない。

I put my bag over there.

There are birds in the tree.

- ⑤ **so**: 副詞として用いられる場合は強勢を受けるが、代名詞や接続詞として用いられる場合は強勢を受けない。

Thank you so much for your help.

I think **so**, too.

I like the jacket, **so** I'll take it.

- ⑥ **oneself**: 前置詞を伴って現れる場合や主語を強調するために挿入されている場合には強勢を受けるが、動詞の目的語として用いられる場合には強勢を受けない。

She'll solve the problem by herself.

She herself didn't believe it.

She washed **herself**.

機能語が強形で発音される場合

機能語が強形で発音される場合もある。たとえば以下のような場合である。これらは機能語であっても比較的聞き取りやすい(ただし内容語ほどは強くない)。

⑦**any**: 「どんな~でも」の意味で用いられる場合は強勢を受ける。

Do you have **any** questions?

This room is open for **any** students to use.

⑧**or**: 話し手がポーズをおいた直後にあるorは少し強めに発音される。

I don't like either dogs **or** cats.

Would you like tea, **or** coffee?

⑨前置詞や不定詞のtoが文末にある場合は少し強めに発音される。

I'm going **to** school.

He's standing **by** the window.

What are you looking **for**?

This is the math problem you spent so much time **on**.

Would you like **to** come with me? Yes, I'd love **to**.

このように、聞き取りやすさには強形なのか弱形なのかということが大きく関わっている。同じ単語でも、強形の場合には強くゆっくり発音されるので聞き取りやすいが、弱形の場合は弱く短く発音されるので聞き取りにくい。ただし、機能語は基本的に強勢を受けないので、よく用いられるのは弱形のほうである(巻末の「弱形・強形リスト」を参照のこと)。

音のつながり: 「連結」「脱落」「同化」 Linking, Elision, and Assimilation

会話では、I will を I'll, should not を shouldn't のように短縮して発音されることが多い。短縮形の場合には2つの単語が結合していることがスペリングにも現れるのでわかりやすいが、実際の発話の中では、短縮形に限らず単語は連続して発音されている。連続して発音されることによって単語と単語の境界の音(すなわち前方の単語の語末の音と後方の単語の語頭の音)が本来の音とは異なる現れ方をすることがある。

冠詞(Articles) a, an, the, some, any

冠詞や some, any は機能語なので、通常は弱形で現れ、強勢を受けずに弱く短く発音される。そのため、独立したひとつの単語としてそのまま聞こえるのではなく、直前あるいは直後にある単語の一部のように聞こえる。

Listen and Repeat!

1. Please take a seat.
2. Are you a good cook?
3. We are going to make an emergency landing.
4. The teapot is in the cupboard.
5. What's the deadline for this report?
6. I saw some elephants.
7. Please lend me some money.
8. Are there any flowers in the garden?

Fill in the blanks!**A. Partial Dictation**

1. It will _____ days.
2. _____ really exciting.
3. Help yourself _____.
4. If you _____, please feel free to ask.

B. Full Dictation

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____

Paul's Pechakucha

Sometimes I know English can sound like one long 早口言葉. It's really important not to focus too much on how the words are written, but instead learn to "turn on" your ears, and listen to how the words sound. There is a trick I use with my students called backwards buildup. It helps them to focus on just the sounds. Start with the last word, and repeat, adding one more word each time, like this:

while.
...a while.
...for a while.
...running for a while.
...it running for a while.
Keep it running for a while.

Isn't it fun?

Any comments or questions?

Lesson 1 Date: ____ / ____ / ____

Score: ____ / ____

Class: _____ Student ID: _____ Name: _____

代名詞(Pronouns) ① I, my, me, you, your

代名詞は機能語なので、通常は弱形で現れ、強勢を受けずに弱く短く発音される。そのため、よく知っている単語であるにもかかわらず聞き取るのが難しい。とくに me, you, your は母音が短くなるため聞こえにくい。

Listen and Repeat!

1. I always think about my dog.
2. Tell me the truth.
3. Can I get you some more cookies?
4. Here you go.
5. You look pleased.
6. Will you marry me?
7. Let me check your bag.
8. Lock the door before you leave.

Fill in the blanks!

A. Partial Dictation

1. Leave _____.
2. What's _____?
3. _____ discount, please?
4. Don't speak _____.

〈弱形・強形リスト〉

Lesson 1 ~ 22 で扱った機能語

機能語	弱形	強形			
a	ə	éi	might	maɪt	máɪt
about	əbàut,	əbáut	must	mæst	máɪst
after	æftər	æftər	my	maɪ, mə	mài
along	əlɔːŋ	əlɔːŋ	of	əv, ə(v)	áv
am	əm	ám	on	ən	án
an	ən	én	one	wən	wán
and	ən	énd	or	ər	óðər
any	əni	éni	our	auər, ɔər	áuər
are	ər	ár	shall	ʃəl	ʃéal
as	əz	éz	she	ʃi	ʃí:
at	ət	át	should	ʃəd, ʃud	ʃúd
be	bi	bí:	some	s(ə)m	sám
been	bɪn	bí:n	than	ð(ə)n	ðæn
before	bɪfɔər	bɪfɔər	that	ðət	ðæt
but	bət	bát	the	ðə, ði	ðí:
by	baɪ, bæ, bi	bái	their	ðər	ðéər
can	k(ə)n	kæn	them	ðəm	ðém
could	kəd, kud	kúd	themselves	ð(ə)mseɪlvz	ðemseɪlvz
did	dɪd	díd	there	ðər	ðéər
do	du, də	dú:	these	ði:z	ðí:z
does	dəz	dáz	they	ðei, ðə	ðéi
for	fə, fər	fɔər	this	ðɪs	ðís
from	frəm	frám	those	ðouz	ðóuz
had	həd, əd, d	háed	to	tu, tə	tú:
has	həz, əz, z, s	háéz	us	əs	ás
have	həv, əv	háév	was	wəz	wáz
he	hi, i	hí:	we	wi	wí:
her	hər, ər	hár	were	wər	wár
him	hɪm, ɪm	hím	what	(h)wət	(h)wát, (h)wát
himself	hɪmsèlf, ɪmsèlf	hɪmsèlf	when	(h)wən	(h)wén
his	hɪz, ɪz	híz	where	(h)wɛər	(h)wéər
I	aɪ, ə	ái	which	(h)wɪtʃ	(h)wítʃ
if	ɪf, əf	íf	who	hu, u	hú:
in	ɪn, ən	ín	whose	huz, uz	hú:z
into	ɪntə, ɪntu	íntu	why	(h)waɪ	(h)wái
is	ɪz, z, s	íz	will	wəl, wɪl, əl, l	wíl
it	ɪt, ət	ít	with	wɪð, wɪθ, wəð, wəθ	wíð
its	ɪts, əts	íts	would	wəd, wud	wúd
may	meɪ, mə	méi	you	ju, jə	jú:
me	mi	mí:	your	jər	júər
			yourself	jərsèlf	juərsèlf